2013年6月23日（日曜日）の東海新報に被災地支援の記事が紹介されました。

東海新報

第16695号　平成25年（2013年）6月23日（日曜日）　日刊（月曜日休刊）

防災の絆「パンの缶詰」

売上分で支援　高島屋が陸前高田市に届ける

大手百貨店の㈱高島屋が販売している「パンの缶詰」が21日、陸前高田市や同市の仮設住宅住民に届いた。「復興支援の見える化」として、消費者が購入した一部が贈られる企画で、住民らに手渡した関係者は支援実現に笑顔を見せていた。

缶詰は、㈱パン・アキモト（栃木県那須塩原市）が製造し、これまでも高島屋の通信販売カタログなどで人気を集めていた。阪神淡路大震災を機に開発され、3年以上の長期保存が可能。ふっくらとした食感も特徴で、宇宙食としてスペースシャトルにも積載された実績を持つ。

東日本大震災後も注目が集まった中、消費者の復興支援に対する関心にも応えようと、高島屋では新たな商品展開を企画。13缶分を1セットとし、12缶は消費者に届き、1缶は被災地に贈る形で販売した。

東北イラストレーターズクラブによるかわいらしいイラストをラベルに用いるなど、備蓄用やアウトドアにとどまらず、贈答品としても活用できるよう工夫。今年3月に販売を始めたところ、多くの反響を呼び、2カ月で被災地支援分は2693缶に達した。

このうち、約200缶は高田高校仮設住宅の住民に、残りは備蓄用として市に寄贈。高島屋関係者は、仮設住宅集会所前で列を作った住民に1缶ずつ手渡し、購入者の早期復興を願う思いも伝えた。

仮設住宅自治会副代表を務める坂井一晃さんは「保存がきく食材であり、大変ありがたい」と、笑顔を見せた。

高島屋クロスメディア事業部カタログチャネルグループの冨澤佳子販売促進担当次長は「私たちができることは小さいかもしれないが、足を止めずに行動することが大切と思っている。お客様の代表としてプレゼントでき、本当に良かった」と話していた。

仮設住宅住民に手渡された「パンの缶詰」＝陸前高田